

様式 3

会 議 録

| | | | | |
|--------------------|--|----------------------------|------|------------|
| 会議名 (審議会等名) | | 令和元年度 第5回相模原市経営評価委員会 | | |
| 事務局 (担当課) | | 経営監理課 電話042-769-9240(直通) | | |
| 開催日時 | | 令和元年9月11日(水) 17時30分~19時30分 | | |
| 開催場所 | | 相模原市役所 職員会館4階 会議室1 | | |
| 出席者 | 委員 | 9人(別紙のとおり) | | |
| | 市 | | | |
| | 事務局 | 2人(経営監理課長 他1人) | | |
| 公開の可否 | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 1人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | |
| 会議次第 | <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) さがみはら行財政改革推進指針について</p> <p>(2) 「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価に関する建議書(案)について</p> <p>(3) 「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価について</p> <p>3 その他</p> | | | |

審 議 経 過

1 開会

定足数及び傍聴者の確認を行い、経営評価委員会を開会した。
主な内容は次のとおり。

2 議事

- ・ これまでの委員会の審議を踏まえ、さがみはら行財政改革推進指針の答申案について、事務局より説明し、次回も継続審議を行うこととされた。
- ・ 前回、「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価について審議を行った7項目について、建議書案としてまとめたものを事務局より説明し、承認された。
- ・ 「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価について、審議対象の19項目のうち、8項目の取り組みについて、事務局より取組結果を説明し、意見交換を行うとともに、委員会評価について審議し、残り4項目について、次回以降も継続審議を行うこととされた。

(以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は事務局の発言)

・ 議事(3)

【取組項目7】(委員会評価結果:「B」)

防災マイスターは、各地区におり、よく活動してくれていると把握している。

- 防災マイスターは、市独自の認定か。
相模原市独自で認証している。
- 学校や自主防災隊への派遣が減ったとの話しであるが、定期的な実施なのか。
申請に基づく派遣である。
- 学校などは入学・卒業があるため、積極的な申請に向けた働きかけは必要である。
- 市民アンケートを指標としているが、無作為抽出である。防災マイスターの活動は積極的かつ効果的な活動をしていると思うが、その結果が指標に繋がりにくいのではないか。特に防災意識については、世間の影響を受けやすい。東日本大震災や西日本豪雨の後であれば、取り組みに関係なく意識は高まる。当該指標では、どれだけ取り組みを積極的に実施しても結果に繋がりにくい。取り組み内容とその結果が適切に測れる指標がよい。例えば、防災マイスターの人数や受講者数等の方が、取り組み結果が適切に測れると考える。

【取組項目8】(委員会評価結果:「B」)

- 要配慮者利用施設のうち、避難確保計画未提出施設に対する作成支援は大切である。
- 災害については、意識によるところが大きい。旧相模原市域においても、自治会等を中心とした様々な訓練等も行われているものの、意識は旧津久井町地域に比べ低い可能性はある。

【取組項目 2 1】(委員会評価結果:「B」)

- インプレッション数という指標自体は重要であるが、その後の展開が最も重要になる。当該事業のゴールをどこに設定するのかという戦略は持っておく必要があるのではないか。

【取組項目 5 9】(委員会評価結果:「B」)

- 取り組みの方向性が、訪日外国人観光客の誘客であれば、指標の目標値に訪日外国人観光客の数値が分かるとよい。

神奈川県調査の延観光客数について、本市分の調査結果を使用しているが、訪日外国人であるかどうかの調査までは行っていない。

- 旅行者の多くは、行き先を決定して旅行に出かける。訪日外国人観光客も、日本に到着した時点では、観光先を決定していると想定される。訪日時ではなく、海外向けに発信している取り組みはあるか。

プロモーション動画の制作・配信やインフルエンサーを活用したファムトリップの実施や情報発信を行っているが、現地に赴いてのプロモーションは行っていない。

- 相模原市を目的に訪日する外国人観光客は多くはないと想定される。

都内観光地での宿泊地が取れず、交通アクセスの良い相模原市を宿泊地として利用する外国人は一定数いる状況にはある。

- そのような特徴を捉えて戦略にすること重要である。特徴を前面に出し、相模原から都内への通勤体験など、変わったイベントの実施等によるPRもよいと考える。

- 来年は東京オリンピックでは自転車競技のコースになるのではないかと。

オリンピック・パラリンピックという機会をしっかりと捉えて相模原市をPRしていきたいと考えている。

- 観光振興計画はどのような状況か。

本年度中の策定に向けて、新たな振興計画は検討中である。

- 新たな観光振興計画も踏まえて、取り組みを行っていただきたい。

【取組項目 1】(委員会評価結果:「C」)

- 実施曜日、時間帯、講座内容の設定が課題とあるが、その通りである。また、時間がある方が興味本位で出席している場合、最終的に市域に戻ってリーダーになるうとまでは考えていない可能性もある。そのことから、平日夜間等を実施し、現役の就労者を捉えていくことも重要ではないか。

- 現状の指定管理者は、ユニコムプラザの貸館業務が主な業務であることで、地域づくり大学に注力できない状況にあるのではないかと。他団体等も含め、戦略的に、抜本的な見直しを行うことも必要だと考える。

地域づくり大学運営委員会において、運営に関する課題に対して議論していることから、課題に対する適切な対応を行っていくことは必要である。

- 市と指定管理者が適切な関わり方をしていないと、指定管理者制度自体がうまくいかないのではないかと。

指定管理者制度の活用方法は本市としても課題となっており、見直しを検討している状況である。制度のメリットである民間のノウハウをしっかりと活用できるよう努めたい。

- 指標を延べ人数にしているが、的確に成果を捉えるためには、実人数のほうがよいと感じる。
- 当該事業のアピールが重要で、知らない市民も多いと思う。
- アピール下手だと感じている。しっかりとターゲットを絞って、事業のPRを行う必要がある。

【取組項目9】(委員会評価結果:「B」)

- 学生消防団活動認証制度の対象は本市在住の学生か。
消防団員として消防活動を行った学生である。
- 学生はボランティアの認証等においては、高いモチベーションを持っているが当該制度は、ある程度、対象に限られることとなるか。
1年以上継続的に実施していることが条件であることから、短期的なボランティアは対象とならない。
- 学生消防団活動認証制度はよい制度であると感じる。民間の職員採用においては、消防団経験者という学生には好印象をいだと思う。
- 消防団協力事業所表示制度における企業メリットは少ないように感じる。企業が興味を持つ、インセンティブを設定する必要はあると思う。

【取組項目10】(委員会評価結果:「継続審議」)

- 民間企業や病院等の他機関における講習も行われているのではないか。当該状況も踏まえれば、実際に応急手当ができる市民は市が捉える人数より多いのではないか。
- 相模原市におけるバイスタンダーの数を捉えているということは、他都市でも把握しているということか。
統計は全国的に行われている。
- 応急手当ができる市民の数という指標であれば、受講者数より、例えば、バイスタンダーの割合を全国割合に対して高くするなど、効果的な指標がよいのではないか。
- 様々な活動を行っているのに対し、受講者数が満たないからB評価というのも疑義はあると思う。取組成果が指標に影響しないとの的確な評価は難しいのではないか。
効果的に取り組みを行っている場合、取組結果と指標がしっかりとリンクしていくような的確な指標は検討していく必要があると考えている。
- 指標に対する実績は満たないものの、講習回数をかなりの数増やしていることもある。積極的な取り組みを評価し、「A」とすることもよいのではないか。
- 当初設定した目標値は、所管局として達成可能であるとして設定していると思う。
目標値に対して的確な評価を行うことも大事ではないか。
- 指標自体に所管局の努力が成果として表れにくいものとなっていることも否めない。所管局で出来る取り組みは尽くしているようにも感じる。今後、講習回数の増加や的確なPRを更に行えた場合に、目標値を達成できるかも明確にいえるものではないと感じる。目標値の再設定について言及した上で、A評価とすることもよいと考える。

指標と異なる部分ではあるが、実際に応急手当が行われた割合など、他の資料を次回、追加で提示したうえで、評価については再協議ということとする。

【取組項目23】(委員会評価結果:「B」)

- 目標の捉え方になってくるが、地域の愛着を高めることや担い手を増やすことであれば、理想的なのは、地域に愛着がなく、関心も薄い対象者をどれだけ振り向かせるかを捉える必要があるが、そのような方からアンケート聴取などは中々難しいところもある。例えば、若い世代であれば、市内の大学に在学する学生に、南区に住みたいか、関心があるかを捉えることもよいと思う。
- 相模女子大学などでは、学生による企画・実施を頑張っていると把握している。このことを、その後に波及していくことが大事で、南区への定住や地域活動の活性化にどう繋げていくかということが重要な取り組みなのだと感じている。

3 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以 上

相模原市経営評価委員会 委員出欠席名簿

| | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 | 出欠席 |
|----|--------|--------------------------|------|-----|
| 1 | 山口 由紀子 | 相模女子大学 副学長・ 人間社会学部 教授 | 委員長 | 出席 |
| 2 | 川崎 一泰 | 中央大学総合政策学部 教授 | | 欠席 |
| 3 | 出雲 明子 | 東海大学 政治経済学部 准教授 | | 出席 |
| 4 | 霧生 卓 | 公認会計士 | | 出席 |
| 5 | 坂本 堯則 | 相模原市自治会連合会 会長 | 副委員長 | 出席 |
| 6 | 染谷 耕平 | 相模原商工会議所 青年部副会長 | | 出席 |
| 7 | 三好 上次 | 公募委員 | | 出席 |
| 8 | 神田 広幸 | 公募委員 | | 出席 |
| 9 | 青木 庸江 | 公募委員 | | 出席 |
| 10 | 澤野 光晴 | 公募委員 | | 出席 |